

○は男名前は女？をつけ

最近の統計調査票をみると該当の数字を丸で囲むとか文字に丸をつけるとかの方式がとられているものが多いなっている。

○一つのつけ違いでも調査票で女が男にされたり、年齢などで子供がお爺さんになってしまうようなことも起り得ることで、たかが○一つでも充分注意して記さないとなんてでもない誤りを生ずることになり兼ねない。

国勢調査などで調査票の審査をしていてこの○のためにいろいろと悩まされることがある。○のつけ違などでこの○と調査票に記載された他の項目や、数字との食い違などがあると票全体からみておかしいものが出来あがつてしまう。もつとも多少の誤りはあつても集計して全体からみればわからなくなるわけだが、これが多くなると誤差も大きくなつてしまう。名前が○子といったような女性のものであるのに性別では(男)となつていようなことがある。こうなると実際にその人を知らない者は(女)に非ずやなどと符箋をつけて照会してしまう。こんな紛らわしいときは調査票の当該欄に「男に相違なし」とでも符箋をつけてもらえば大変ありがたいわけである。名前はどつちみち親が適当？につけたものであり一種の符号みたいなので、一番目だから一郎とか初枝とか末つ子だから留男とか子供が生れても育たないので反対の名前、男に女の名前をつけるとか、性名学などから最高のものをつけても人の一生はその名前について行けないようなつまらない人生に終つて、名前が泣くなどの結果にもなるようである。

家計簿が悲鳴をあげてるまた値上

どうです近頃の物の値上りは家計をあづかる主婦にとつては頭の痛い問題ですね。街中はいたるところあれもこれもみんな値上で、いつたいいつになつたら物価が安定してくれるのでしよう。

戦前には恩給生活者という一種の職業的みたいな者が存在していたわけですが、恩給をもらつて老後のささやかな生活を楽しんでいたわけです。これが現在ではどうです。年金をもらつても年毎の値上りで、煙草錢ぐらいになつてしまうわけです。ですからある程度の年齢になつて職を辞めなければならぬとなると、今後の生活が問題になつ

ておいそれと辞めることができないのが今の世の中でしょう。

モノの値が騰つていく割に上らないのは所得、お札の運搬機などといわれる亭主族にとつて家計の赤字を報告されるたびに咏木の「働けど〜ジツと手をみる」という実感をしみじみと味わうことでしよう。物価の値上りを敏感にキャッチするのが家計簿であつて、毎日の生活を欠かせない日用品や食糧品などは金額こそ少ないが、値上率はすこぶる大きく、つもりつもつて馬鹿にならない額となつて家計簿に記される、そして女房族のヒステリーの要因ともなつてくるわけではないでしょうか。

人の和が表彰という実を結び

我田引水になるおそれもあるが、以前学校関係の統計調査をやつていて人の和がいかにか大切であるかという実例をちよつとご紹介してみたい。

学校関係の統計事務を4年やつて、3回大臣賞の栄に輝やいた。しかも住宅統計調査事務でも大臣賞を受賞されるということである。

仕事は別に平常と変りなく普通にやつてきたつもりであつて、別に賞をもらうという気分は係員一同も期待してもいなかつたわけである。それだけに自分達のやつてきた仕事が完べきに近かつたという自信を持つたことではないかと思つている。

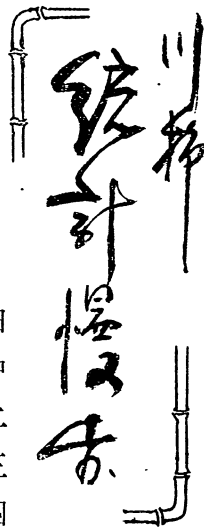
表彰などというものはもらうために努力してみたところで意味のない話で、もらおうとしてももらえるものではない。あの程度のことをやつて表彰を受けるということ

であればそんなにむづかしいことでもないようである。しかし与えられた仕事を各人が責任をもつて果したということ、すなわち人の和が表彰という結果になつて表わされたに過ぎないと思う。

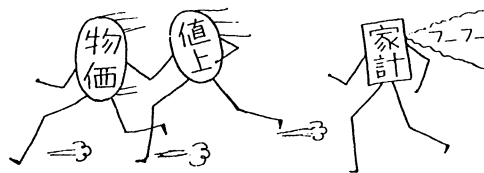
いかに優秀な人であつても、人の2倍も働けるものではない。平凡な人間がお互いに一致して各人を尊重し、和気あいあいとした一家という感じで執務が出来るときどんな仕事でもそうムキにならずスムーズに行な

われるのではないだろうか。

その当時の人達はいま離れ離れになつてそれぞれ違つた分野で活躍をしている。しかしあの当時お互いにいたわり合い、お互いに冗談を言いながら気持よく執務できたことを心から感謝している。



(3)





昭和39年度
茨城県統計大会開催きまる

昭和39年度の本県統計大会の開催についての要領が決まりました。毎年恒例として開かれておりますこの大会は、県下統計関係者の祭典として、盛大に行われております。今年も一層の意義あらしめるため、皆様のご協力をお願いいたします。

記

目的 統計関係者の意識の統一と、県民に対する統計思想の普及向上のための意見の交換をし、相励すこと。

主催 茨城県・茨城県統計協会

期日 昭和39年10月6日（火曜日）

会場 水戸市北三の丸・茨城会館

参会者 本県統計関係者

行事 統計功労者の表彰・統計図表展入選入賞者表彰
統計図表展入選入賞作品展示・統計調査員の体験発表記念講演

地方統計職員業務研修の実施

統計基準局は、市区町村統計職員を対象として、昨年度はじめて全国約100か所で4日間の短期研修を行なつたが、本年度も5月末から6月にかけて6か所で指導者研修が行なわれた。本年の指導者研修は、研修課目の内容によつて統計解析分科会、行政、実務分科会、統計利用分科会の3分科会を設け、各分科会では7ないし11科

目を4日間に分けて実施した。今回分科会方式としたのは、一般研修の研修科目を都道府県で選定する際、全科目について内容を知つておくことが望ましいこと、各分科会に同一人が出席することによつて関連ある諸科目について専門的理解がえられること、指導者研修の講師の思想統一が容易であることなどの理由によるものとされている。この後、一般研修が北海道4か所その他の都道府県各2か所合計49か所で実施されることになつている。

第12回全国統計図表コンクール審査結果

去る6月末日で締め切つた第12回全国統計図表コンクールに応募した作品は、一般からのものではなく小中学校合せて49点が県へ提出されました。

今年是全国統計大会の開催時期の関係から応募期間が短かつたので、出品作品の少ないのは残念でした。これら応募出品作品については、県・教育庁・統計協会から関係者が参加慎重に第一次審査を行なつた結果、第1部（小学校）5点、第2部（中学校）5点が出品作品として選ばれました。その結果についてこのほど主催者の全統連から入選者決定の通知があり、本県関係のものは第2部入選8席、佳作のそれぞれ各1点が入選しました。なお、これが入選者に対する表彰は、8月27日青森市で開かれる全国統計大会の席上行なわれることになつております。

統計課人事異動

(昭和39年8月1日付)

新			旧
農林統計係	主事	岡田紀一郎	企画係
商工統計係	〃	坪隆	経済統計係
企画係	主事補	木名瀬一恵	農林統計係
経済統計係	〃	福田邦子	土浦土木事務所
人口学事統計係	〃	柏村昌子	農業改良課
退職	〃	深沢春子	人口学事統計係

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
経 済			生産動態統計年報	38 年	愛 知 県
消費者動向予測調査結果 (速報)	39年 5月	経 済 企 画 庁	青森県統計年鑑	37 年	青 森 県
法人企業投資予測調査報告	39年 6月	〃	和歌山県統計年鑑	36 年度	和 歌 山 県
管内経済統計年報	38 年	関 東 財 務 局	島根県統計書	37 年	島 根 県
産 業			福井県民所得	37 年	福 井 県
化学工業統計年報	39 年版	通 産 大 臣 官 房	新潟県民所得推計結果報告	37 年	新 潟 県
繊維統計年報	38 年	〃	千葉県統計年鑑	38 年	千 葉 県
紙, パルプ統計年報	39 年版	〃	広島県統計年鑑	38 年	広 島 県
教 育			佐賀県統計書	38 年	佐 賀 県
学校教員構成等調査報告書	38 年	文 部 省	県 民 所 得	37 年	長 野 県
へき地学校実態調査報告書	38 年	〃	大阪の職場	38 年	大 阪 府
茨 城 県			千葉県勢要覧	38 年版	千 葉 県
茨城県議会資料	39 年 8 月刊	議 会 事 務 局	徳島県統計書	38 年	徳 島 県
国保の実態	39 年度	国 保 連	学校基本調査	38 年	島 根 県
医療施設, 医師, 歯科医師 薬剤師調査	38 年	医 薬 務 課	学校保健統計調査	〃	〃
茨城県衛生研究報告	39 年 3 月刊	衛 生 研 究 所	県民所得推計報告	37 年	鳥 取 県
茨城県税務行政資料	39 年	税 務 課	鳥取県の賃金と雇用	38 年	〃
ポケット予算	39 年	議 会 事 務 局	鳥取県統計年鑑	39 年刊	〃
茨 城 職 安		県職業安定協会	工業統計調査結果報告書	37 年	島 根 県
交 通 年 鑑	38 年	警 察 本 部	商業統計 〃 〃	37 年	〃
県 税 等 決 算 額 調	38 年	税 務 課	群馬県統計年鑑	39 年刊	群 馬 県
茨城県道路現況調査	38 年	道 路 補 修 課	消費者動向予測調査報告	39年 2月	〃
石岡市の農業	39 年刊	石 岡 市	統計年鑑	38 年	愛 知 県
常陸太田(要覧)	39 年刊	常 陸 太 田 市	家計調査報告	38 年	滋 賀 県
初任給の動向	39年 4月	経 営 者 協 会	毎勤地方調査結果年報	38 年	〃
モデル賃金調査結果報告	〃	〃	学校基本調査結果	38 年	千 葉 県
職種別賃金の推移	〃	〃	県 勢 要 覧	38 年	和 歌 山 県
企業経営と賃金	〃	〃	琉球統計年鑑	37 年	琉 球 政 府
石下町建設実施計画	39 年刊	石 下 町	県 民 所 得	37 年	山 口 県
ま か べ(要覧)	39 年刊	真 壁 町	奈良県統計年鑑	37 年	奈 良 県
いしげ町勢要覧	83 年	石 下 町	琉球要覧	38 年	琉 球 政 府
各 都 道 府 県			山形県勢要覧	39 年版	山 形 県
市 政 概 要	38 年度	横 浜 市	秋田県勢要覧	39 年版	秋 田 県



人間雑話 (23)

茨城大学教授 塚本勝義

いま、オリンピック目あてに物心両面にわたつて、いろいろの準備をしている。いいことだ。利口な人は、そんな付焼刃は笑止の限りだという。しかし、道をよくすれば、よい道はあとまで残る。花を咲かせれば種の一粒や二粒はきつと地中にもぐり込む。親切の快さを経験すれば、その気持良さは死ぬまで心に刻みつけられる。決して無駄な骨折りとはならぬ。

よく生きる人は、どんな小さいチャンスをも見逃さない。見えないようなチャンスをも手際よく捉えて最大限の効果を収める。小さいチャンスを捉えられぬ人間は、間違つても大きいチャンスはつかめぬ。オリンピック目あての小細工は問題でないなんて大きく構えている人間こそ問題でない。

○ ○ ○ ○

どんな職場にある人だつて自分の仕事に慣れることは大切だ。習うより慣れろ——という諺さえある。が、慣れることの本質を忘れると、困つたことになりかねない。自分の責任を果すこと、仕事の能率を挙げることに慣れるのが「本質的な慣れ」だろう。手を抜くことに慣れる、ごまかすことに慣れる、責任逃れに慣れる——みんな困つた慣れかただ。タダ酒を呑むことに慣れるなどは飛んでもない。

就職後十年ぐらいが浮かぶか沈むかの境になる。いわば人生の関が原だ。この十年間に本質的な慣れ方をすればしめたもの。その人間はぐんぐん伸びる。くだらぬ慣れ方をすれば闇夜の自転車乗りみたいに同じ所ばかりぐるぐる廻りして野垂れ死にしてしまう。私の知つてる人で、目ざましく伸びつづけている者がある。ときどき会うが、いつも初々しい。新鮮で、清潔だ。悪ずれしない何よりの証拠だ。もう四十に手の届く年配らしいが、話している感じでは学生とおなじ。よくこれで大切なポストにいられるもんだと不思議にさえ思う。おそらくあの男は、現在の初々しさを失わぬ限り、いつまでも伸びるだろう。死ぬまで育つだろう。

○ ○ ○ ○

人間は生き物の中では確かに賢い方だろう。しかし人間も生き物の一種で、決して神や仏でないから、ときどき馬鹿げた事をやる。アメリカのウィリアム・パロウズという男は「裸の昼食」という作品で、排泄の模様を事

こまかに書いた。全くつまらんことに力を入れたものだ。人間の馬鹿さ加減を説明したようなものだ。かつて石原慎太郎が「太陽の季節」の中に障子を突き抜く場面を書いた。すると文学志望の連中が、われもわれもときわどい場面を書き立てた。

くだらん事に興味を持ち、つまらぬ事を真似たがる性質も人間は持つているらしい。

○ ○ ○ ○

高村光太郎の「智恵子抄」が近頃評判となり、とうとう流行歌にまで作られてしまった。昭和16年の作が今頃大人気を得たのだから夢のようだ。水戸の本屋さんにお尋ねすると、毎月きまつた部数が、きまつて出ていとおつしやる。本物の生命は永いという事実を痛感する。たしかに「美しい」という形容詞のびつたりする作品だ。人間には薄汚い面もあるがこんな美しい面もある。排泄光景に馬力をかけるような鼻もちならぬ愚かさもあるが、神の心にも通う美しい情感を持つている。

愛の心の深さ、美しい哀しさ、神秘的な夫婦のあわれさを、こんなに豊かに湛えた作品はめつたにない。類を求めるとしたら万葉集の相聞歌が探りあてられるくらいだろう。こんな美しい愛の相を現わし得た詩人高村光太郎の心情の有難さもさることながら、見落し得ない人間関連のひとつの事実もひそんでいることを忘れたくない。それは関連する人間のレベルが大きく開いている場合には、誰でも案外素なな心情を持ち得るということだ。正気の光太郎と狂つた智恵子との距離は大きい。まるで違つた世界の夫と妻である。こうなると、どんな人間でも無理なく相手を眺めることができる。親と子は、ややもすれば対立し易いが、祖父母と孫という関連になると、もう対立は生まれない。祖父母の愛は殆んど無条件で孫にふりそそがれる。落差の大きい必然の現象だ。光太郎の愛が、あんなに純粋になり得た原因のひとつにこの夫と妻の落差がはたらいている。

人間としてのレベルがまるで違つている夫婦で、すばらしくうまく行つている例もざらにあるのは、光太郎智恵子の場合と全く同じといえる。自然な愛のよろこびに生きたいものは、レベルの異なる結婚をした方がよろしいという意見だつて決して暴論ではない。人間関連は限りなく複雑である。